

経営比較分析表（平成29年度決算）

香川県 さぬき市

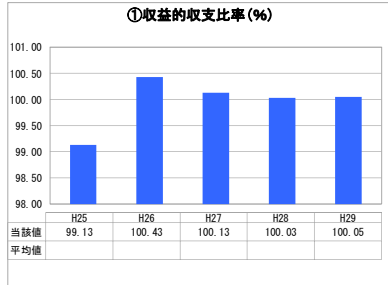
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	漁業集落排水	H2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	1.60	100.00	2,700

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
49,512	158.63	312.12
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
786	1.98	396.97

グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 平成29年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



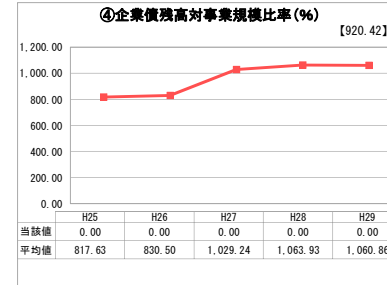
「単年度の収支」



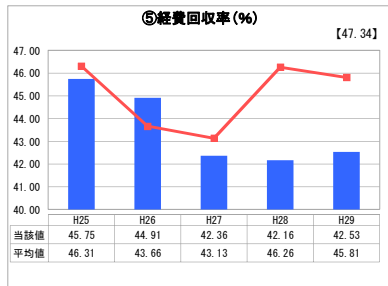
「累積欠損」



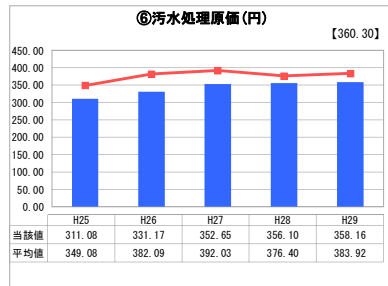
「支払能力」



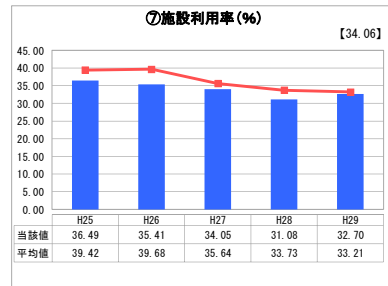
「債務残高」



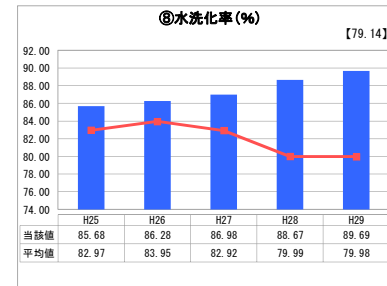
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

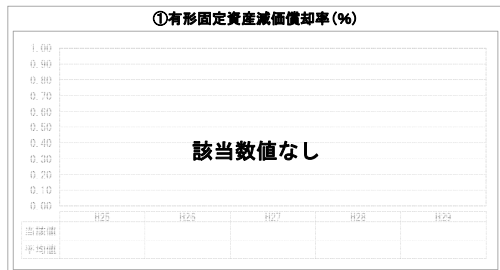


「施設の効率性」

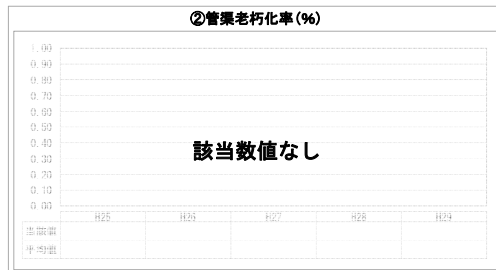


「使用料対象の捕捉」

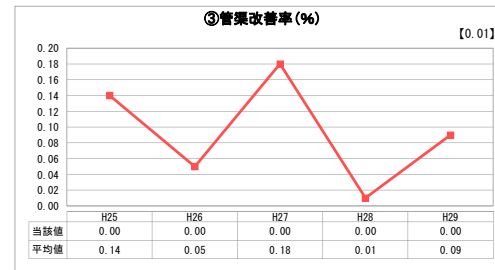
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

収益的収支比率は、100%を超える状況であり、また、企業債残高対事業規模比率、経費回収率及び汚水処理原価については、類似団体に比べ下回っているものの、事業規模に対する地方債償還金の割合も高く、「分流式下水道に要する経費」の公費負担により、事業費のほとんどが一般会計繰入金により賄われているのが実情であるが、今後数年間は、大規模な整備も予定していないことから、大幅な経営状況の悪化は見られないものと考えている。

しかしながら、近年の少子高齢化による人口減少が大きく影響することは言うまでもなく、施設の老朽化に伴う修繕費などの影響により、施設維持管理費の増加が予想されるため、今後については、より一層の経費削減と使用料の増収に向けた取り組みが必要である。

2. 老朽化の状況について

管渠の更新については、現在、法定耐用年数が経過しておらず、事業開始以降、大規模な更新を実施していないが、今後については、法定耐用年数の経過に伴い、最速整備構想計画を策定のうえ、随時更新していく必要がある。

また、施設の更新については、老朽化に伴う修繕工事を随時実施しているが、大規模改修においては多額の経費を要するため、管渠同様に最速整備構想計画を策定のうえ、効率的・効果的な改築・改修工事を実施していく必要がある。

全体総括

本市における経営状況は決して安定しているとは言えないものの、使用料収入の大幅な減少はなく、企業債残高についても減少傾向が見られることから、今後とも引き続き、平成28年度に策定した経営戦略（平成29年度～平成38年度）に基づき、水洗化率の向上を図る一方で、老朽化に伴う更新においては、ネットワーク化、ダウンサイジング等を考慮しつつ、経費削減に努めていくことにより、持続可能な下水道経営を目指すこととする。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均値を表示していません。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。